記憶に残そう昭和の西山

平成１５(2003)年 12 月

宝塚市西山コミュニティ協議会(コミュニティ西山)

記憶に残そう昭和の西山

目次

はじめに
（１）ごあいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １
（２）記憶に残そう昭和の西山の構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・ １
序章　西山地域の概要
（１）西山地域の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２
（２）逆瀬川の開発 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７
（３）阪神淡路大震災 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９
１章　宝梅
１－１　宝梅の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１
１－２　宝梅の今と昔 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１
（１）宝梅園 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１
（２）聖天さん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １５
（３）宝の塚 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６
（４）地域の方々のお話　能戸祥行さん ・・・・・・・・・・・・・・ １７
（５）『西山想い返して』　村野隆英さん・・・・・・・・・・・・・・ １９
（６）西山の話　高岡義雲さん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２２
２章　野上
２－１　野上の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２３
２－２　野上の今と昔 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２３
（１）逆瀬川団地　住宅公団逆瀬川団地について　金子澄子さん ・ ２３
（２）西山地域の思い出など　水上和子さん ・・・・・・・・・・・ ２５
（３）野上幼稚園　野上地区管見　木本徹さん ・・・・・・・・・・ ２７
（４）西山の今昔　蒲原幸生さん ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２８
（５）西山地域のこと　小梅喜久子さん ・・・・・・・・・・・・・・ ２９
（６）西山地域のこと　磯村薫さん ・・・・・・・・・・・・・・・・ ２９
（７）野上郵便局　池田佐和子さん ・・・・・・・・・・・・・・・・ ３０
（８）西山地域のこと　満谷昭夫さん ・・・・・・・・・・・・・・・ ３０
（９）㈱松田ポンプ製作所 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３１
（１０）西山小学校 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３２
３章　千種
３－１　千種の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３４
３－２　千種の今と昔 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３４
（１）千種が丘自治会の今・昔 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３４
（２）宝塚ゴルフ倶楽部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３５

4 章　社町、塔の町
４－１　社町、塔の町の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３９
４－２　社町、塔の町の今と昔 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３９
（１）平林寺 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３９
（２）宝塚神社 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４２
（３）大和銀行宝塚運動場 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４５
（４）小林聖心女子学院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４７
小林聖心女子学院昭和 20 年代の思い出　浅田和子さん ・・・ ４９
（５）バラホーム保育所　高田英子さん ・・・・・・・・・・・・・ ５０
5 章　関連記録
（１）クイズでポン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５３

■　資料編

資料―１　周辺の変遷　日本図誌大系から ・・・・・・・・・・・・ ５７
資料―２　この国に生きて　ヘルマナマイヤー(産経新聞記事より)・ ６１
資料―３　宝塚市　西山地域小中学校校歌 ・・・・・・・・・・・・ ６７

記憶に残そう昭和の西山

2003(平成 15)年 12 月

宝塚市西山コミュニティ協議会(通称コミュニティ西山)

はじめに

（１）ごあいさつ

昨年度（2002 年度）生活復興県民ネットの助成を受け「まちのガリバー地図づくり」の記録集を作成したことは記憶に新しいかと思いますが、その過程におきまして地域の過去の写真を掲載したところ大変興味を持ち、もう少し地域の方に協力をお願いして記録に残したいと云う気運が高まりました。その結果、15 年度も復興県民ネットの助成を受けるべく申請を致しました。若干の縮小はされましたものの、受けることが出来、今回の記録集にいたりました。

地域の事業所や古くからお住まいの方、学校、幼稚園、自治会等を通じて資料を集めさせていただきました。

また、恒例の「西山まつり」におきましても「クイズでポン」という表題でクイズ式の問題にチャレンジしていただき地域の昔について身近に興味を持ってもらい、知る機会を作りました。

各種の書籍から、写真や文章を引用するなど限られた時間と制約の中で作業を進めましたのでまだまだ不十分なところが多々ありますが、この資料が地域の方々にとって昔の小学校区を知る機会となり、過去があり現在に至り、そして今後の地域そして宝塚の未来へと移り変わっていくことに興味をもっていただく、ひとつのきっかけとなれば良いなと感じています。また足りない点は補足していただきたいと考えております。そしてそれらのことがコミュニテイ西山では、今後の「地域ごとのまちづくり計画」の取り組みの延長線上につながっていくことを願っております。

アンケートにご協力いただいた地域の方々には本当にお世話になりました。

この場をお借りして厚く御礼申し上げます。有難うございました。

そしてまた今後とも私たちの住んでいるまち宝塚を「ずっと住んでいたいまち」に皆さんと共に協力して創って行きたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

コミュニティ西山　会長　大崎裕子

（２）記憶に残そう昭和の西山の構成

地域を構成している、企業、学校、ゴルフ場などの特徴的な施設に対して、訪問、聞き取りを行ない、併せて、自治会への依頼を行ない、昔の記憶を記述していただきました。

地域は昭和 43 年の住居表示により、宝梅、野上、千種という大きくわけて３つの区域になりました。以下はこの３つの区域ごとに記しています。なおこの３つの区域の他に、社町の一部、塔の町の一部が含まれていますので、その区域についても別途 4 章として記述しています。なお、宝塚ゴルフ倶楽部は「蔵人(くらんど)」という地名として今に残っています。

序章　西山地域の概要

（１）西山地域の概要

コミュニティ西山の地域は、宝塚市の南西部、阪急電鉄今津線の逆瀬川駅から西に約 1 キロから 2 キロの距離にあります。ここは瀬戸内海国立公園に指定された六甲山系の、東端の山麓部にあたり、標高 60m～100m 前後の丘陵がつらなっています。かつては小林（おばやし）とも、「蔵人（くらんど）」とも呼ばれ、その地名も残っています。小林や、蔵人という地名は現在の阪急電鉄今津線の東側、武庫川流域の沖積平野に位置する集落の名称であり、山麓部にこれらの名前が残るということは、武庫川沿いの集落に薪炭を供給する「いわゆる里山」であったと考えられます。

記録に残る最も古い施設は、平林寺(へいりんじ)であると思われます。寺伝によれば、聖徳太子の開創と伝えられるそうですが、石造の路盤は鎌倉時代(1192 年～)のものであり、江戸時代には「武庫の七寺」の一つとして著名で、当時の有名な地誌である『摂陽群談』という書き物にも記載されているとのことです(関西デジタルアーカイブ 2003 に記載)。かなり古くから地域(旧良元村)の中心的な存在であったことが想定されます。宝塚神社も隣接しており、こちらは石の鳥居(江戸時代のもの、一部は阪神淡路大震災で倒壊)が残っています。平林寺とあわせて神仏混淆(しんぶつこんこう)の歴史を物語っています。

市街化が進むのは 1921(大正 10)年 9 月の阪急今津線(旧西宝線)の開通からです。宝塚ゴルフ倶楽部は 1926(大正 15)年 8 月、小林聖心女子学院は 1923(大正 12)年 12 月、日本興業銀行、日本銀行、といった銀行のグラウンドや寮もできてきました。これらの施設の間をぬうように住宅地開発が進み、宝塚市立第 1 中学校などが立地することになります。第 1 中学校は、のち 1968(昭和 43)年に、校区の再編に伴って現在の西山小学校になりました(その年の一学期のみ、中学生と小学生が同じ校内で学習活動を行なっていました)。

その頃は、兵庫県武庫郡であり、「良元村小林字西山」というのが一帯の地名でした、現在の聖心女子学院は「小林字ハゼリ」、宝塚ゴルフ倶楽部は「蔵人字山畑」、大和銀行グラウンドは「小林字一畑」、野上通り一帯は「小林字野上通」、支多々川沿いの市営住宅周辺は、「良元村小林字中ケ谷(なかがたに)」といった地名であり、丘陵地が徐々に開発されてきたことがうかがえます。

住宅地としての開発が急速に進んだのは、第 2 次世界大戦後、昭和 30(1955)年代です。宝塚市が誕生した 1954（昭和 29)年は主要な施設の他は多くが山林でしたが、公共交通の利便性の高まりもあり、次第に住宅が山の上に広がってきました。1960 年代には住宅公団（現都市基盤整備公団）の開発(520 戸)があり、コミュニティ西山の区域のさらに西側には、新たな住宅開発やマンション開発(現在の逆瀬台、青葉台、光ガ丘などの一帯です)が進み、大阪・神戸方面に通勤する人のための、いわゆるベッドタウンとなりました。この急激な人口の増加は現在では沈静化していますが、現在では約 3700 世帯、9700 人をようする住宅中心の市街地が広がっています。

区域の中心を流れる逆瀬川の名前の由来は、かつて「逆巻く川」であったということから、または、武庫川に注ぐ際に流れに逆らって注いでいたことによるともいわれ、あばれ川だったことが想起されます。昭和 20 年代には周辺に大きな水害がありました。のち水質の悪化でドブ川となっていましたが、現在は下水処理の成果で美しい水質が戻りつつあり、内畑緑地にはホタルの育成のため「ピカピカランド」が市によって作られ、人々の目を楽しませています。逆瀬川は現在

も福井町、光明町といった武庫川流域の農地に農業用水を供給しており、六甲山の恵みを与えてくれています。

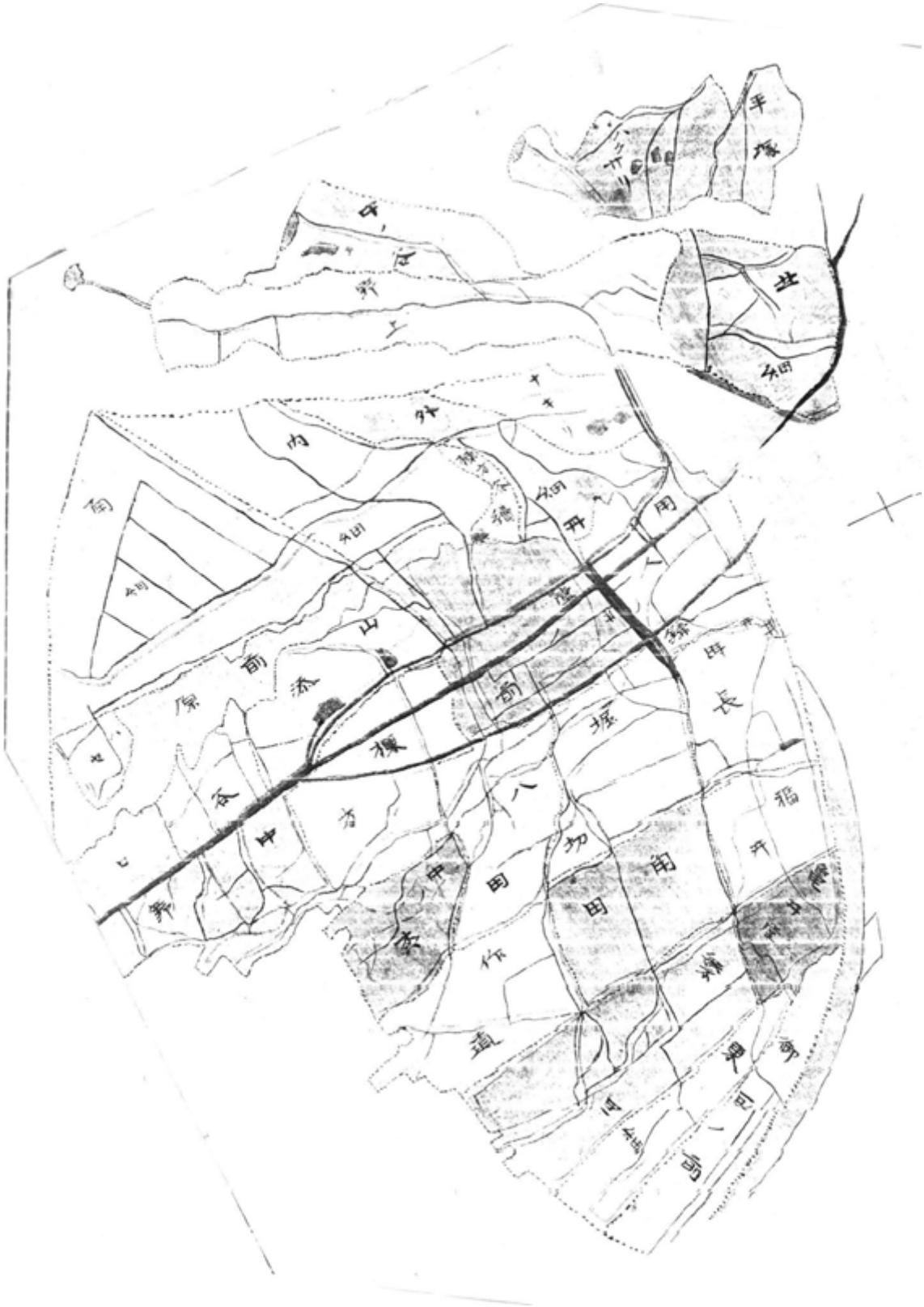
区域の年齢別人口構成を、宝塚市社会福祉協議会の資料でみると、2002 年 9 月 31 日現在の住民基本台帳の 65 歳以上は 1,691 人、全人口 7,489 人の 23%を占めています。宝塚市平均１７％よりも６ポイント上回っており、西谷地域(26%)に次いで高齢化が進んでいます。西山小学校の児童数もかつて最盛期には 900 人を超えていましたが、2002 年度は 439 人（５月１日現在）であり、次第に減少の傾向にあります。しかしここ 2～3 年はマンション開発により、児童数の上昇も想定されています。また、周辺を含めて大規模な有料老人ホームや、老人健康施設、痴呆性高齢者居住施設などの立地も進んでおり、土地利用は徐々に変りつつあります。

■　（以上の全人口データは社会福祉協議会によるもので、市の統計データとは異なる部分があります。）

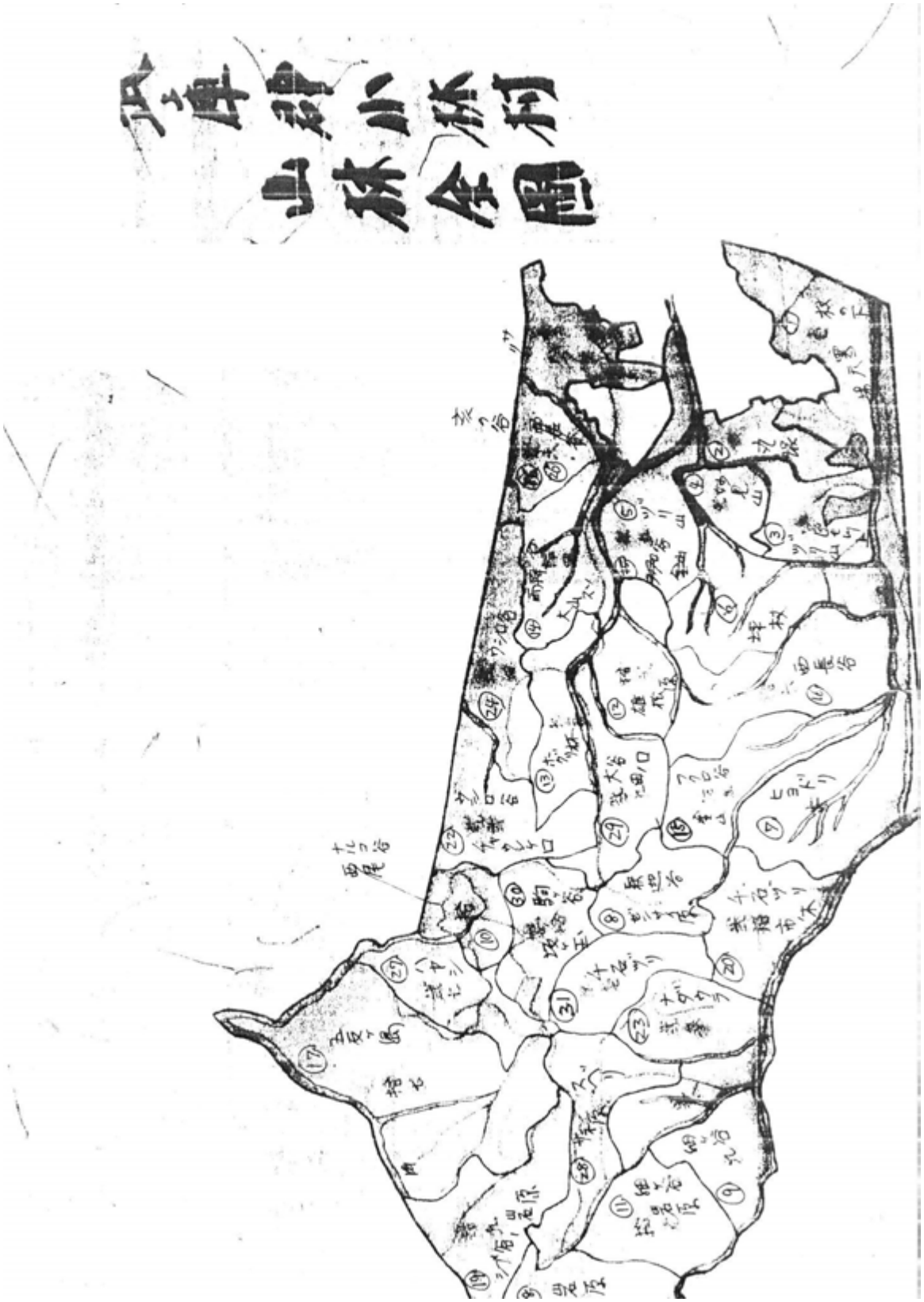
コミュニティ西山の区域図(2002 年末現在)

■小林村全図(木本徹さん所有のものを複写)

野上、中ノ谷という地名が上のほうに見えます。現在の野上本通り沿いに農地が広がっていたそうです。左のほうにハゼリとあるのは現在の小林聖心女子学院のあるところです。谷口などは現在もある地名です。山添という地名は山添公園に名残をとどめています。



■小林村山林全図(木本徹さん所有のものを複写)



（２）逆瀬川の開発

逆瀬川は、コミュニティ西山の区域の、野上と千種を隔てています。大正 10(1921)年、現在の阪急今津線の開通により、地域への本格的な市街地開発が始まりました。平塚嘉右衛門という方が逆瀬川の治水事業とあわせて両岸を開発したとのことです。

聖天さん境内の顕彰碑の碑文(昭和 36 年：1961 年)には以下のように記されています。

『翁は夙に志を地方自治の振興に致し、良元村長、武庫郡会議員、兵庫県会議員を勤め、武庫川、逆瀬川護岸工事の完成、道路網の新設、上水道の敷設など郷土開発に献身的努力を尽くされ、なお阪急電鉄と提携し宝塚旧温泉、宝塚ホテル、宝塚ゴルフ倶楽部を創設し以って本市の観光住宅都市としての繁栄の基礎を築かれた功績はまことに大なるものがある。
ここに碑を建て市民と共にその偉業を永遠に讃えんとするものである。
宝塚市長　　田中詮徳　撰文　　昭和三十六年五月　建立　宝塚市』

(以下は宝塚市史からの引用です)

宝塚聖天境内にある顕彰碑の平塚嘉右衛門は、逆瀬川の地域を語る時になくてはならない人物である。

大正 10 年頃に、宝塚／西宮北口間の阪急今津線の開通とともに逆瀬川付近は文字どおり「逆瀬川の幕明け」となるが、この頃明治時代より施行されていた六甲山系の砂防工事が着々と進み、武庫川の護岸工事も下流の方から実施されてくるに及んで、大正十五年、小林在の平塚嘉右衛門氏等は私費により河川改修を申し出、逆瀬側下流一帯付近の宅地造成を始めた。

この時までの逆瀬川は、川幅が広く、現在の野上の大地と、千種の大地の間にわたり一面の砂礫地で、所々に小松が生えていたという。この荒川原が、平塚氏の改修工事によって、ほぼ現況の川の様子となった。

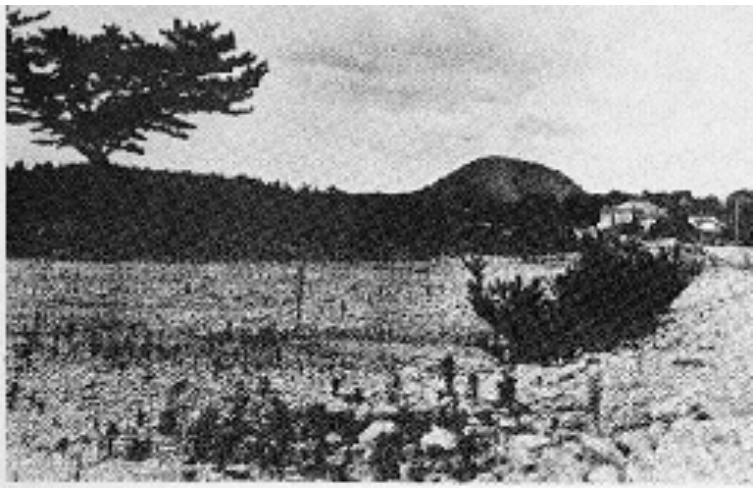
また逆瀬川と武庫川の合流点付近では現況ではなく逆瀬川の他にもうひとつの水流が武庫川から分かれていて（現在の中州)、平塚氏はこの地を埋め立て、整地し、旦湯本から温泉を導入し、昭和４年頃「中州楽園貸別荘地」として売り出してもいる。

平塚嘉右衛門氏は、埋め立て地や買収地を住宅地として供するため、施設の水道を施設し、都市ガス（神戸ガス会社）も導入。碑文にもあるように、宝塚旧温泉、宝塚ホテル、宝塚ゴルフ倶楽部を創設。我が地域にも広がる観光型、大都市郊外型の住宅地の始めをつくった人物として、讃えられている。（宝塚市史より）

■逆瀬川の名称の由来

逆瀬川は有史以来氾濫を繰り返していた「暴れ川」急流で、川水の流れる様から「怒濤逆巻く急流」との意味から誰言うとなく「逆瀬」と呼ぶようになったとのことです。しかし一方では、武庫川に注ぐ際に、武庫川の流れと反対側に注ぐことから「逆瀬」という名前になったという説もあるようです。

■写真：明治時代の逆瀬川　現在の野上２丁目から３丁目、千種４丁目の崖の下の付近からと思われます。県道もまだできていない頃で、周辺は砂原が広がっていたようです。



■　写真：2003　年現在の逆瀬川です。両岸は住宅が立ち並び、県道は交通量の多い道となっています。両側の住宅地はもともとは逆瀬川の河川敷でした。

■　逆瀬川には砂防堰堤が作られています。

（３）阪神淡路大震災

1995(平成 7)年 1 月 17 日、地域を大きな地震がおそいました。この地域内でも建物や公共施設に大きな被害がでました。コミュニティ西山では、西山小学校の体育館に救援物資の配給などに協力を行ない、地域のみなさまに支援活動をしてきました。のち断層を歩く会を催しましたので、その地図を記しておきます。また、宝塚市が記録集をだしていますので、その結果を合わせて掲載させていただきます。

宝塚市における震災被害　阪神淡路大震災　宝塚市の記録1995　1997年3月　発行宝塚市

町名	世帯数	全壊	全壊率	半壊	半壊率	小計	率	一部損壊	一部損壊	合計	率
千種1丁目	317	29	9.1%	89	28.1%	118	37.2%	81	25.6%	199	62.8%
千種2丁目	187	61	32.6%	38	20.3%	99	52.9%	50	26.7%	149	79.7%
千種3丁目	248	23	9.3%	54	21.8%	77	31.0%	94	37.9%	171	69.0%
千種4丁目	351	4	1.1%	46	13.1%	50	14.2%	94	26.8%	144	41.0%
社町	98	1	1.0%	12	12.2%	13	13.3%	33	33.7%	46	46.9%
野上3丁目	430	21	4.9%	72	16.7%	93	21.6%	114	26.5%	207	48.1%
野上4丁目	481	12	2.5%	109	22.7%	121	25.2%	171	35.6%	292	60.7%
野上5丁目	247	38	15.4%	80	32.4%	118	47.8%	85	34.4%	203	82.2%
野上6丁目	914	19	2.1%	162	17.7%	181	19.8%	350	38.3%	531	58.1%
塔の町	197	34	17.3%	67	34.0%	101	51.3%	30	15.2%	131	66.5%
宝梅2丁目	380	14	3.7%	102	26.8%	116	30.5%	132	34.7%	248	65.3%
宝梅3丁目	115	11	9.6%	23	20.0%	34	29.6%	43	37.4%	77	67.0%
計	3965	267	6.7%	854	21.5%	1121	28.3%	1277	32.2%	2398	60.5%
参考市内計	76265	5535	7.3%	14737	19.3%	20272	26.6%	20905	27.4%	41177	54.0%

避難者数

	開設時期	延べ人員					
		1月	2月	3月	4月	5月	計
西山小学校	1.17～3.17	4792	563	47	0	0	5402
宝塚ゴルフ場	1.20～1.29	100	0	0	0	0	100
計		4892	563	47	0	0	5502

屋解体申込数

	件数			
千種	102			
塔の町	20			
社町	3			
野上	139			
宝梅	52			
計	316	(野上1,2含む。宝梅1含む)		
参考市内計	4600			

■注：以上の記録は上記報告書から転載したものです。社町および塔の町は、コミュニティ西山の区域外も含まれます。また、家屋解体申込数は、各町の合算ですので、コミュニティ西山区域に含まれない野上１，２丁目、宝梅１丁目の全域、塔の町、社町の各一部も含まれます。

図:西山地域の断層　平成 8 年 2 月 25 日　コミュニティ西山資料から

(資料:新英社(活断層)、声の教育社(国立高専入試回答から)、中田高　広島大学文学部教授(講演会から)

野上 6 丁目付近では 8 センチほど移動したとの市役所の方の話でした。

１章　宝梅

１－１　宝梅の概要(２、３丁目。適宜１丁目も含む)

宝梅はコミュニティ西山区域の北部に位置します。現在 1 丁目から 3 丁目までありますが、現在のコミュニティ西山の区域は 2 丁目と 3 丁目になっています。宝梅は、兵庫県地名辞典によれば、昭和 43(1968)年から現在の地名になったようです(以下の世帯数、人口は地名辞典に記されたものです。

> **ほうばい　宝梅（宝塚市）**
>
> 〔近代〕昭和４３年～現在の宝塚市の町名。１～３丁目がある。もとは宝塚市小林の一部。昭和４８年小林の一部を編入。町名は字名による。同５０年の世帯数５５１・人口１,９６９。

> **ほうばい　宝梅１～３丁目**　〒６６５－００１３（世帯）７０１（人口）２,２３２　◇市の南部。北は宝松苑・寿楽荘、西は青葉台１丁目に接する。支多々川がほぼ南境をなす。かつて八馬(はちうま)氏が経営していた梅園も、現在は住宅地となった。地内は古墳も点在したというが、宝塚と称される１基の古墳が宝梅中学校内に移築されているのみで、ほとんど破壊された。３丁目に平塚嘉右門の顕彰碑、宝塚合併に尽力した女性村長の岡田指月の句碑がたつ東寺真言宗了徳密院(とうじ　しんごんしゅう　りょうとくみついん：通称聖天さん：編集者注)がある。

１－２　宝梅の今と昔

（１）　宝梅園

宝梅という地名は、「宝梅園」という、果樹園で知られる大きな庭園があったことによります。ここはかつて地元の名士であった八馬(はちうま)さんの土地であり、その方が所有する園地で、周辺地域や阪神間の住民の、遠足や憩いの場でもあったようです。

昭和 43 年の住居表示で宝梅となりましたが、それ以前の支多々川(したたがわ)沿いは「良元村小林字中ケ谷(なかがたに)」となっていました。昭和 8～9 年前後の住宅分譲の案内では「上旭ヶ丘」という地名もでてきます。この旭ヶ丘という地名は第 1 小学校の校歌にも歌われています。支多々川はかつて「小逆瀬川(こさかせがわ)」と呼ばれていました。逆瀬川に比べて規模は小さいですが、ほぼ同じ形で東流し、武庫川に注ぐことでそう呼ばれていたのかもしれません。現在も支多々川下流の阪急電鉄今津線の踏み切りは「小逆瀬川踏み切り」となっています。

支多々川下流の山下橋付近にはため池があったそうです。宝梅園は昭和 30(1955)年代に閉鎖されましたが、地名は住居表示と中学校名として残っています。

宝梅園の南側にあたる支多々川沿いは、旭ヶ丘住宅地となりましたが、第 2 次世界大戦中は、日本軍のガソリンをいれたドラム缶が松林の中に隠されており、歩兵が立っていたそうです。

■写真右:2003 年現在の小逆瀬川南踏切

写真：宝梅園(昭和 39 年 5 月。高田さん提供)

宝梅みかん園(昭和 38 年。高田さん提供)

山下橋付近のため池(昭和 30 年代。高田さん提供)

宝梅園牧場(昭和 38 年。高田さん提供)

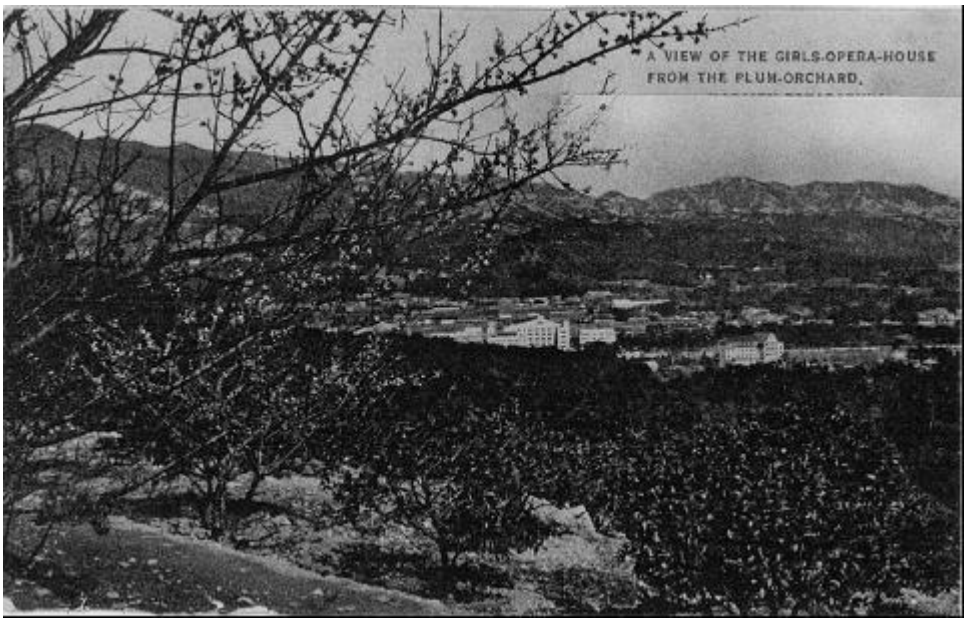
写真下左：山下橋付近。昭和 38(1963)年 8 月。大きな柳の木が見えます。

写真下右：現在の山下橋付近。2003 年 12 月。支多々川沿いの石のパラペットはガードレールに変わっています。

写真下：宝梅テニスコート付近。テニスコートは2003(平成 15)年に閉鎖され、現在は住宅地となっています。

昭和 8～9 年の宅地分譲のパンフレットを、宝梅 3 丁目にお住まいの原啓さんが保存しておられました。それによると、1 区画あたりの規模は 100 坪から 480 坪、支多々川沿いに「上旭ヶ丘住宅地」として売り出されていました。そのパンフレットによれば、位置および環境として、**「大阪浦江聖天別院前景勝の地　東六甲の翠巒（すいらん※）に抱かれたる　丘阜（きゅうふ※）にして　摂河平野を一眸（いちぼう※）に蒐（あつ※）め、大阪全市が手に取る様に見える絶勝（ぜっしょう※）の地」**とあります(※のよみがなは編集者による)。現在の支多々川の河川敷にあたる丘陵部に、開発をしてきたことが想定されます。そのころは河川敷近くとはいえ、かなりの眺望が得られていたことでしょう。現在は、かつての宝梅園の姿をとどめるものはなく、戸建て住宅やマンション開発などによる市街化が進んでおり、2003 年末現在、昭和 20 年代につくられた日本銀行グラウンドの跡地に、280 戸という大きな規模の有料老人ホームの建設が進んでいます。

写真下：宝梅園から見た宝塚歌劇場方面。このように宝梅園からの眺望はすばらしく、絵葉書にもなっていたようです(昭和 30 年代。「宝梅園と宝塚歌劇場遠望　絵葉書」(A VIEW OF THE GIRLS-OPERA-HOUSE FROM THE PLUM-ORCHARD とあります))。



上畑ヶ丘住宅地パンフレット。昭和8~9(1933~1934)年頃のものと思われます。
宝塚第一小学校の校歌に「畑ヶ丘の松林」とあり、その名をとどめています。

（２）聖天(しょうてん)さん(正式名：七宝山了徳密院：しっぽうざんりょうとくみついん)

【聖天さんは、大正 8(1919)年、大阪市にあった浦江(2003 年現在の北区)の福島聖天了徳院の別院として建てられたものです。コミュニティ西山では、毎年夏祭りに協賛させていただき、とてもお世話になっています。由緒などを栞(しおり)から転載させていただきます。( )内の西暦年次や読み仮名は編集者注です。】

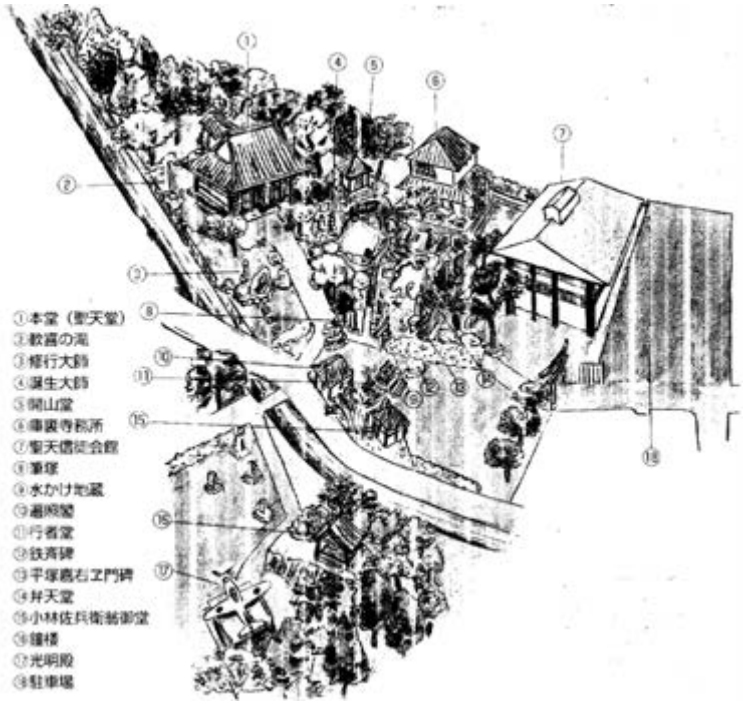
■宝塚聖天参拝のしおり

通称「宝塚の聖天さん」と呼ばれている七宝山了徳密院は、大阪浦江の福島聖天了徳院の別院として大正八年、日下義禅(くさか　ぎぜん)大和尚(元真言宗東寺派管長)によって、建立されました。日下義禅和尚は、平素から弘法大師を非常に敬慕されていましたが、大師の平民学校(京都、綜芸種智院)開設に習ってちょうどこの年、池田市石橋の地に宣真(せんしん)学園の創設にも力を注がれています。(大正 9 年：1920 年)創立。

当時兵庫県武庫郡良元村に村長として平塚嘉右ヱ門(ひらつか　かえもん)という人がおられました。此の人は当時まだ一寒村であった良元村を、今日の宝塚に発展させた主役の一人でありますが、ある機会に日下大和尚と会談された際、たまたま支多々川流域の領地開発のことに及びました。当時此の附近一帯は小石の多い広々とした河原でありましたが、此処には古くから宝塚の名の根源となった「宝の塚」－現在は宝梅中学校内―　があり、また隣接地の行者山の岩窟には役の行者(えんのぎょうじゃ)、神変大菩薩尊(じんべんだいぼさつ)が祀られていましたので、大和尚は、これらの不思議な因縁に深く心を打たれ「ここに法憧(ほうしょう)を樹つべし」との神仏冥々(しんぶつめいめい)の声を聞かれたと伝えられています。

大和尚の開山の情熱と法力とは、その精根をつくして当山開創に注ぎ込まれました。平塚嘉右ヱ門翁はまた、大檀越(だいだんおち)として外護、護持に力を尽くされ、京阪神十万の檀信徒はこれに協賛し、その賛助の力はここに結集されて、本堂、庫裡、遍照閣、鐘楼等の堂宇相次いで建立され、また参拝者の修養の場として信徒会館、阿宇館(あじかん)等の施設や茶室も設けられて、風流味得の庭も開かれました。そして平塚嘉右ヱ門翁、逝去されるや宝塚市は翁の地域開発の功績を偲んで「頌徳碑」を深緑の地、当山に建立し、永く後世にその偉徳を伝えんとしました。

しかし平成七年の阪神大震災で本堂以下、ほとんどの建物や石碑が壊滅状態となり大打撃を受けましたが、檀信徒の助力により、その四年後、平成十一年に復興を終えることができ、現在に至っています。



■右：聖天さん配置図

（３）　宝の塚

宝塚市のいわれになったともいえる宝の塚は、現在、市内に 2 箇所あります。御殿山と宝梅です。昔宝を隠していたという話があります。

宝梅園の一角にあり、現在の宝梅中学校南側のグランド付近に位置していました。周囲は 30 メートルほどもあったようですが、1962(昭和 37)年、宝梅中学校の建設の際に移転され、現在はその中心部のみが宝梅中学校の正門の脇にあります。

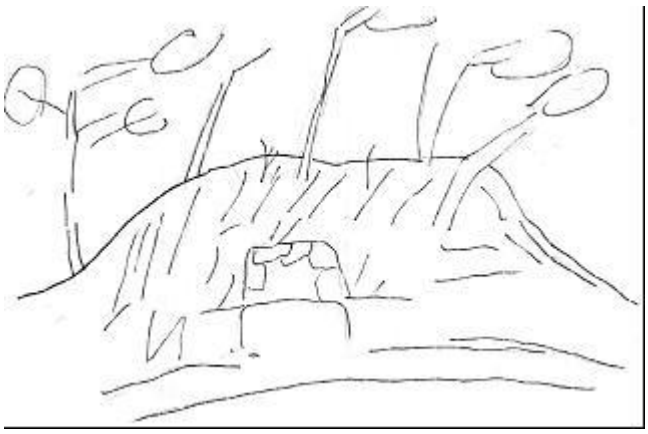
231　宝の塚　Ⅱ

この塚は右岸宝梅園の一隅にあったが、付近一帯が宝梅中学校の校地になったので、昭和三七年その校門の傍らに移された。古記録はないが、だれいうとなく「高原塚」と呼び、転化して「宝塚」というようになったとする説もある。

写真：宝の塚
（移転前。宝梅中学校のグラウンドの南付近に位置していました。周囲は約 30 メートル、高さは約 3m ほどあったそうです。：能戸さん談）

写真：宝の塚(移転後。現在の宝梅中学校の正門を入ったところにあります。)

図：能戸さんによる宝の塚のスケッチ



（４）　宝梅中学校(ほうばいちゅうがっこう)

宝梅中学校は、宝塚市の人口の急増に対応するものとして、1961(昭和 36)年 4 月 1 日、宝塚第

1 中学校から分かれる形で開校しました。当初は第 1 小学校と第 1 中学校で授業が始まり、順次校舎が整えられていったようです。校歌の中にも「園に床し白梅の」「宝の塚のゆかりにも」といった表現が残っています。宝梅園と宝の塚は地域のシンボル的な存在だったことがみてとれます。のち 1983(昭和 63)年、この宝梅中学校から光ガ丘中学校が分離して開校しています。

（５）『太平洋戦争時代の宝梅地区』

能戸祥行さん

【能戸祥行(のと　よしゆき)さんは、宝梅地区のシンボルともいえる聖天さんの敷地内に 1997(平成 9)年 5 月まで居住し、小さい頃は朝 6 時の鐘をついていた方です。現在は加東郡社町に転居されていますが、この話を聞き、一文をよせていただき、インタビューにも快く応じていただきました。コミュニティ西山が設立された頃、一員として活動され、震災後、断層を歩く会を催されていました。戦争の傷跡がこの区域にも色濃く残っていることが、お話を聞くとよみがえってきます。以上編集者注】

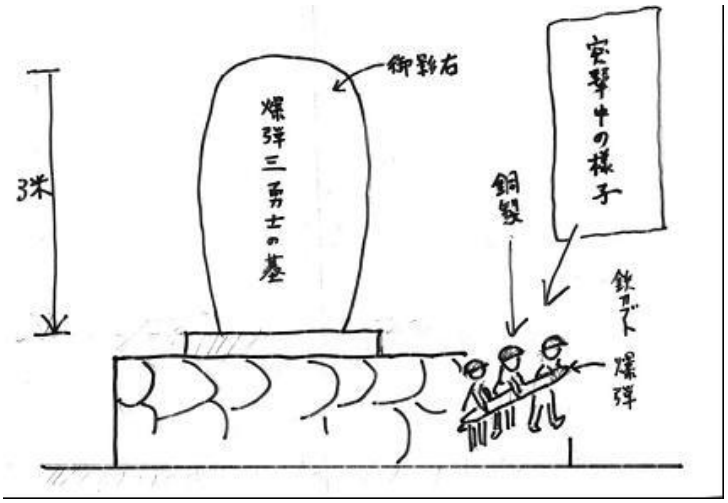
私は昭和 20 年３月迄、東京の杉並区に住んでいました。昭和 20 年２月９日の 11 時から 10 日未明にかけて米軍の B29 による夜間空襲に遭いました。この時の空襲による死者は十万人を超すと言われています。

その後、政府の命令で私達家族は、３ 月に宝塚聖天に縁故疎開させられました。しかし聖天さんも安全な場所ではありませんでした。特に昭和 20 年５月初旬だったと思いますが、B29 の大編隊(史料によると約 600 機の B29)が来襲し川西航空機工場(現在の阪神競馬場)が爆撃され、爆弾の破片が聖天さんの本堂を直撃し、ガラスが割れたのを覚えています。

この当時の宝梅２丁目・３丁目付近の道路両脇は住宅地として整備され、深い松林でした。この松林の中に軍用のガソリンが入ったドラム缶が疎開のため隠されていました。

そして宝梅２丁目から３丁目を経て聖天さんまでの路には、100 メートル間隔で兵隊２名が銃剣を持って哨戒(しょうかい)していました。

この時代の聖天さんには、国民学校(現在は小学校)時代に習った教科書の修身に載っている爆弾三勇士の墓がありました。終戦後の昭和 20 年９月 10 日頃、米軍が聖天さんに来て、爆弾三勇士の墓を撤去するように命令が下り、撤去されました。



この爆弾三勇士の墓地があった場所は、聖天さん広場にある木像、小林佐兵衛像の竹林内です。大きさは下欄に示しておきます。

私の少年時代は住宅地も戦場でありました。現在の平和な暮らしに、心から感謝しながら筆を措きます。

平成 15 年８月 11 日

■インタビュー記録：
宝梅地域の昔について(野上・千種含む)能戸祥行さん
ときところ：2003(平成 15)年 10 月 31 日(土)10:00～12:00　於ウエル西山

宝梅は、昔は「良元村字西山」でした。**聖天さん**の土地は平塚さんという人が開山和尚に寄付したものです。聖天さんは結構人を集めており、昭和 17(1942)年ころは、阪急電車の宝塚南口駅からお参りのためのバスが通っていました。聖天さんの開山和尚は「日下義禅（くさかぎぜん）」といい、真言宗東寺派の管長をしていて、人との対話が上手な人でした。和尚は寄付をどんどんするので、周囲の人は困ったとのことです。生涯独身で、「宣真女学校(せんしん)」をつくった人です。もともとは海軍に入りたかったのですが、試験に落ちてしまい、高野山の大学に入り、お坊さんになったという経歴の持ち主です。

爆弾三勇士の碑は、戦意高揚のため、右翼の小林さんという人が働きかけて設置された話を聞いていますが、和尚の海軍に対する意向も働いたのかもしれません（**編集者注：ゼロ戦の原寸模型があるのも、そのような理由かもしれません**）。軍人墓地はニューギニアで戦死した人が多いらしいです。昭和 20 年 8 月末に米軍がジープに乗って来て、爆弾三勇士の碑を撤去する命令を出し、人夫 100 人くらいが来て馬車に移し、どこかへ持っていきました。その時、米軍のジープが聖天さんの石段を上るのを見てビックリしました。

支多々川は聖天さんの上流でたびたび氾濫し、大水の度に河道が変りました。その南側は現在の市営西山墓地及び青葉台となっていますが、四国 88 箇所の地蔵があり、約 2 時間半のお参りのコースとなっていました。市営西山墓地は、かつて聖天さんが良元村に、税金の代わりに差し出した土地です。支多々川下流には、現在の桜道の東側にあたるところに弁天池(編集者注：ひょうたん池とも呼ばれていた)があり、支多々川からの水と砂が流れ込み、水が美しく、夏は朝から泳いでいました。

宝の塚は、戦国時代から江戸時代にかけて、宝を隠すために塚を作ったものと聞いています。沢山あったのですが、こわれてしまったのでしょう。八馬さん(酒造の「多聞(たもん)」の親戚)が宝梅園をつくったときは、宝の塚は宝梅中学校のあたりに残されており、土盛りでみかんの木が多く、南側は梅の木が多かったです。

宝梅園の中や聖天さんの山では、マツタケが沢山とれました。現在のアーバンライフ(マンション)のあたりは宝梅園のマツタケ山でした。

宝梅園は「宝梅園牛乳」というのをつくっていました。一度牛乳を洗った水を流したのが下流の池に流れ臭かったです。日銀グランド(**編集者注：2003 年末現在有料老人ホーム建設中**)は戦後 1945 年以降にできたのですが、その前は宝梅園の池で、水が抜けてそのままでした。

野上 2～3 丁目の現在逆瀬川沿いの崖の下は、川西航空機の倉庫となっており、野上通りや逆瀬川沿いの道は軍用トラックのループ道でした。千種は軍馬の訓練をするところで、馬が沢山いました。支那事変(しなじへん)の時に活躍したものです。

写真右：インタビューに応じる能戸祥行さん、左は池本健治さん(元コミュニティ西山会長)

写真:聖天さんで行なわれた爆弾三勇士の記念式典:昭和 17(1942)年。この記念碑は戦後すぐに撤去されています。左奥にある鐘楼は現在のものです。

写真:爆弾三勇士の記念碑があったところです。2003 年末現在。聖天さんの広場になっています。左奥の鐘楼は木々に覆われています。正面奥の実物大ゼロ戦模型は、光明殿の上に置かれたもので、昭和 53(1978)年に建立されたものです。

（６）『西山、想い返して』

元西山小ＰＴＡ会長　村野　隆英さん

【村野さんは昭和 20 年に西山に転居してこられました。他の方々同様、桜道の東側にあったひょうたん池や、野上の西側の山に雑木林が広がっていたことなどを記されています。また、競馬場関係の資料から、小林駅の西側に計画されていた競馬場の平面図と計画模型写真を提供していただきました】

作家の京都伸夫氏が、「市史研究紀要たからづか第 4 号」に次のように記しておられます。

「筆者が、逆瀬川の野上２丁目に家を建てるため土地を買った時（昭和 39 年）、表の道は雑草に掩われ、敷地は石ころだらけで、松が茂っていた。昔は逆瀬川の河原であった。野鳥はたくさんいた。セミもトンボもホタルもいた。逆瀬川の山手（野上、西山、千種）は、山林と畑で、大会社の寮があるだけで、逆瀬川は豪雨のたびによく被害を受けた。駅前には火葬場があって全くの田舎だった。」

私は、この記述より以前（昭和 20 年～終戦の年）、小学校 3 年の時、野上通り 4 丁目に移り住みましたが、その当時の様子を、うまく表現してくれています。

今回、これを機会に西山地域の成り立ちことを、生まれが小林村落の先輩に聞くことにしました。もともと各村落は、自給自足の場を持っていました。小林村落の田は、武庫川までの田園地

帯であり、畑が昔の、地名が示す菜切り・外畑・内畑(現千種)と内畑・野上であり、そして西山の樹木が燃料の供給源でした。また、各山麓には溜池があり、逆瀬川、支多々川と合わせて水路が作られ飲料水と農業用水が確保されていました(図１参照)。

各地域の特徴としては、外畑・内畑(現千種)は、良好な赤土の平坦な台地でみかん・くり・もうそう竹(竹の子)・そしてお茶も収穫されていました。ところが戦争中の昭和十九年、鳴尾にあたった競馬場が、川西航空機工場の戦闘機の試験場に没収され、その代替地として軍によって買収されてしまいました。馬の厩舎が建てられ戦後しばらく残っていましたが、正式に、現仁川競馬場に建設がきまり、不動産会社に買収され、今の住宅地に変ぼうしていきました(阪神競馬史より、図２参照)。

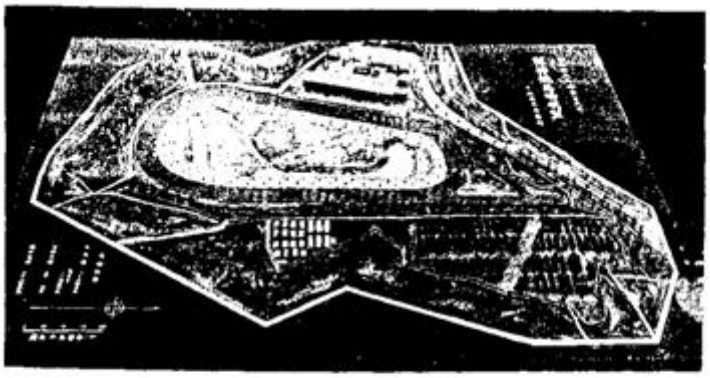
また、野上３丁目の神戸水道西側から、現西山小グランドにかけては、逆瀬川が犯濫した砂地に、低木の松林が拡がり、戦後まもない頃、軍需製品の部品が埋められており、少年たちが掘り出して売って小使銭稼ぎにもしていました。そして、戦後、宝塚ゴルフ場はじめ、西山地域の瀟酒な洋館の豪邸はアメリカ駐留軍に没収されていました。宝梅園の八馬氏の豪邸もその一つでした。神戸水道西側から宝梅園の間には、近代的な農場があり、牛乳の製造加工や種なし水瓜の種が生産され、全国に出荷されてもいました。

私は、そんな背景の中で野上の地で少年時代を過したのですが、その想い出を二、三あげてみます。野上四丁目の西側の桜並木に沿って長さ約１５０m幅３０mの多分人工池とおもわれる「ひょうたん池」やその下流に２つの溜池があって、水泳や小魚釣そして池にもぐって藻の間から貝を獲り遊んでいたこと。野上５丁目の丘の雑木林の中に小屋を作ってターザンごっこをしていたこと。野上３丁目の中間に高さ１０mくらいの崖があり、もうそう竹の林もあって竹の子をとりにいき、滑り落ちたこととかが走馬燈のごとく思い出されます。

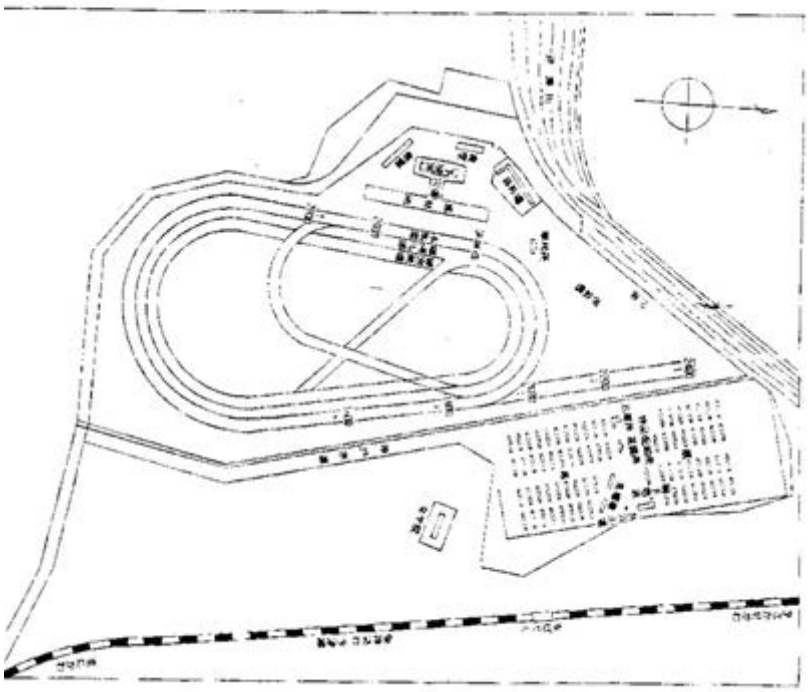
そして、昭和30年代、逆瀬川の公団住宅が建ち野上、千種、宝梅苑と新しい住宅街となり、青葉台、光が丘、逆瀬台と住宅街が造成され、いわゆる「西山」という山は削られ、多くの自然の緑が消えていったのであります。

■ため池の図(右。村野隆英さんによる。)現在の野上通りと桜道の交差点から東北には弁天池という池があり、支多々川沿いにも池があったことが示されています。これらの池は現在は住宅地となっています。平林寺の北にある池は2003 年末現在も存在していますが、今後埋め立てられる予定です。

■逆瀬川競馬場計画図(下。村野隆英さんによる。)聖心女子学院の北側や西側一帯に競馬場の計画があったことがわかります。現在の阪神競馬場の土地と交換する形で、この土地は京阪神不動産のものとなり、住宅地となりました。



逆瀬川競馬場見取図および模型写真



（７）西山の話

高岡義雲さん(昭和 42 年 4 月 1 日から居住)

【高岡さんは、2003 年末現在、聖天さんの住職をしておられます。コミュニティ西山では、いつも夏祭りに参加させていただいております。】

１．昔の西山地域のこと（先代住職に聞いた話）

昔、この地域は小林字西山といわれ、現在の支多多川沿い一帯は、小石の多い広々とした河原であり、大雨の度に洪水を起こしていました。

大正８(1919)年、この地に宝塚聖天が、大阪浦江福島聖天の別院として建立されます。

当時近くには、宝梅の地名の由来ともなった広大な梅林があり、乳牛が飼育され、宝梅牛乳が生産されておりました。

宝塚駅の南部になるこの地域には、大小のいくつかの古墳があり、その中には宝塚の名の根源となった「宝の塚」（現在は宝梅中学校内）もありました。

聖天さんに隣接して旅館もあり、松茸などもたくさん取れ旅館で松茸鍋などを出されていたそうです。

戦後は住宅も少しずつ建ち始めましたが、まだガスや水道もなく、井戸を使い、松ぼっくりを燃やして燃料にしたことなど聞いています。こういったのんびりした環境も、昭和４０年代の初めごろから急激に変化していきます。

昭和４５年には、支多々川は整備され洪水はなくなりましたが、日本で始めての万博のために、聖天さんに隣接して５階建ての宿舎が建てられ（現在の宝梅園団地)、その後どんどん宅地開発がなされ、あっという間に住宅街に変身していったのです。

２．現在の西山地域のこと

一軒の山寺であった聖天さんの周りは、現在、４０００軒以上の住宅街に大きく変化し、昔の情緒ある面影はまったくなくなってしまいました。支多々川の水も昔は飲料水として使われていましたが、現在は、住宅排水を流す川に変わりました。けれど、バスも通るようになり大変便利にはなったと思います。

３．その他

住民の皆さんがのんびりと心を癒す場所ーゴルフ場ほどの広々とした憩いの場とその隣に市民文化会館や広いスペースの駐車場ーそんな場所が近くにあれば、生活のなかに潤いができて素晴らしいのですが。

年々この地域も治安が悪くなってきています。ご近所同士お互いが声を掛けあい挨拶などをして、顔見知りになっていくことが事件や事故を防ぐことにもなるでしょう。挨拶運動などに力を入れてどうでしょうか。

2章　野上

２－１．野上の概要(3～6 丁目。適宜１、２丁目も含む)

野上は逆瀬川中流域で千種地域の北に隣接し、コミュニティ西山区域の中部、逆瀬川の左岸から支多々川の間に位置します。現在１丁目から６丁目までありますが、現在のコミュニティ西山の区域は 3 丁目～6 丁目になっています。野上は、兵庫県地名辞典によれば、昭和 41(1966)年から現在の地名になったようです(以下の世帯数、人口は地名辞典に記されたものです。

かつて一帯は「良元村小林字西山」という地名で、いわゆる「里山」でした。現在の野上通り沿いは「良元村小林字野上通(りょうげんむら　おばやし　あざのがみどおり)」という地名で、現在の通称野上本通りと桜道の交差点附近が境界だったようです。野上通りの北側の支多々川の南側一帯は「小林字中が谷」でした。その周辺に住宅が密集してきて、住居表示で現在の「野上」という名称が残りました。

のがみ　野上（宝塚市）

〔近代〕昭和４１年～現在の宝塚市の町名。はじめ１～５丁目、昭和４８年からは１～６丁目がある。もとは宝塚市小林の一部。昭和４８年小林の一部を編入。町名は字名による。昭和４５年の世帯数１,８４０・人口６,６２６。

のがみ　野上１～６丁目　〒６６５－００２２　（世帯）２,５２８（人口）６,２８２　◇市の南部。北東は阪急電鉄今津線を境に中州１丁目、南西は蔵人に接する。北と南をそれぞれ支多々川と逆瀬川に挟まれた、武庫山麓まで続く狭く細長い地域。逆瀬川沿いに、主要県道明石神戸宝塚線が通じる。市内でも昭和初期から開発された住宅地。逆瀬川左岸に中州の住宅地が続く。１丁目に宝塚第一小学校、４丁目に宝塚野上郵便局、６丁目に西山小学校がある。

２－２　野上の今と昔

（１）逆瀬川団地　　『住宅公団逆瀬川団地について』

金子澄子さん(昭和 41 年:1966 年から居住)

【金子さんは逆瀬川団地に建設当初からお住まいです。逆瀬川団地は昭和 30 年代、大都市圏の住宅需要に対応するものとして、住宅公団(当時。2003 年現在は「都市基盤整備公団」に改称)により建設されたものです。市内では仁川団地に次いで古い公団住宅開発になります。総戸数 520 戸(18 棟)。鉄筋コンクリート造 5 階建て。昭和 41 年 3 月末入居開始です。当時の思い出と現在の状況などをよせていただきました。阪急オアシスは現在シードというミニスーパーとなっています。店の前の複合遊具では子どもたちが遊び、地域の中でも人が集まる、お気に入りの場所となっています。2003 年 8 月 20 日にいただいた原稿です。:以上編集者注】

逆瀬川団地は丘を開き、地形をそのままの状態で建築し、緑も多く桜も植えて美しいところです。今の西高校まで、川に沿って松林が続き、遊歩道で、団地の裏も山になっていて池もあり、子供達の冒険の場でした。

西山小学校はもと宝塚第 1 中学校で、現在の体育館もその当時のまま。子供達は宝塚第 1 小学

校へ通学していました。開設当初のマーケットは阪急オアシスで、喫茶室やクリーニングの取次ぎもしていました。

夏には大きなスクリーンをはって映画会もあり、また、盆踊りや阪急オアシスと共に夜店も出て子供達の楽しみの場であって、住民のコミュニケーションの場でもありました。

あの頃は宝塚花火大会も陸橋のところから良く見えてにぎわっていました。

ゴルフ場のバス停前の、今のマンションのあるところは東洋ベアリングのクラブハウス(編集者注：同社のトレーニングセンター)があり、坂を上って玄関のところ洋館のたたずまいはテレビドラマなどのロケもあり、団地の中も時々テレビや映画のロケ地になりました。

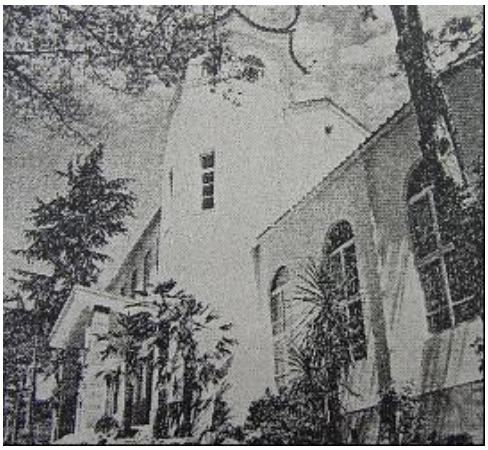
小学校横のグランドでは、青春スポーツドラマのロケも度々ありました。

(公団は)開設当時は若い人が多かったのですが、住み心地が良く、環境や交通の便も良いので子供たちが独立したあと、高齢者が残り、また、公団が高齢者用にリニューアル住宅となっているので、他から独立夫婦高齢者が多く入居して、今では高齢者が多くなっています。

■　写真右：逆瀬川団地の様子(松林が多く残っています。緑の多い閑静な住宅地になっています。2002 年 10 月。)

■図右：住宅公団配置図。18 棟 520 戸の団地です。

■図下：NTN 東洋ベアリングのトレーニングセンター：とんがり帽子の塔が松林の上に見えて、雰囲気が良く、映画の撮影などにも使われたそうです。現在は既になく、跡地は NTN 社宅マンションになっています。



（２）西山地域の思い出など

水上和子さん(昭和 19 年:1944 年から居住)

【水上さんは 2003 年度現在、宝南自治会の会長をされており、コミュニティ西山の委員もされています。昨 2002 年度のガリバー地図づくりの報告書に載せた写真は、水上さんからお借りしたものです。バス停の新設などに活躍しておられます。以上編集者注】

①昔の西山地域のこと

昭和 19 年戦災で家が全焼して当地に越してきました。住所は、武庫郡　良元村　小林字西山 4 番地〇〇です。

桜道入口の旧日銀社宅の前のお家迄が、小林字野上通り〇〇です。今は野上の地名が住居表示で残っています。

当時、逆瀬川駅はプラットのみで、屋根もなく、無人駅に等しく駅員 1 人が入れる駅舎で、電車が来ると駅員さんが出て、１人ずつ切符を受取っていました。

仁川駅と小林駅の間に川西航空機工場の工員さんの通勤に朝夕仮設の駅がありました。８５歳くらいの高齢者に聞きますと、野上通りの桜道あたり迄、農家が３軒だけだったそうです。昭和１９年から現在迄残っている家は、宝南第一自治会の赤田様と宝南自治会の貝住様の母屋です。私の家の廻りは戦前から 6 軒ほど家が建っていました。当地で在住されているのは、私の家と、小刀禰様の家だけです。

桜道入口の四つ辻の南側の木本様が農業をしておられました。築 100 年だった住居が、震災で全壊しました（現在新築されています)。

私の住んでいるところを、山、山、と言っていましたが、今は逆瀬台等が開発されて入口になりました。当時附近は松林が多く、又小さなため池も沢山ありました。

小高いところから見ますと、松林のみどりの上に、東洋ベアリングの保養所？(編集者注：トレーニングセンターです・2003 年現在跡地は同社の社宅となっており、存在しません。)の建物のトンガリ帽子が頭を出し、ロマンチックな風景でした。

桜道の東側に大きな「ひょうたん池」があり、桜道入口のバス停前は公園になっていまして、春は桜の美しいところでした。

桜道入口のバス停から 4 丁目に入る道は、ひょうたん池のくびれたところです。夏は満々と水をたたえ、近所の子供さんは水着のまま池に泳ぎに行ったりしていました。「モロコ」や「タニシ貝」もよくとれました。風光明媚の美しいところで、夕方逆瀬から帰ってきますと、目の前に蛍が飛び交ったりしたものです。自然の美しいところでした。

「ひょうたん池」も冬は全く水がなくなり、池の底が見えている状態でした。S30 年頃(春)、東側の土手を壊して造成、現在池のあとに家が建っている状態です。

小刀禰様の家の横に小高い山があり、その土を池の埋め立てに利用しました。近所で今も生存されている(明治 36 年生)お年寄が、軽井沢のようないい所だと言われた事を思い出しました。その頃、池の東側に阪急住宅が建ち、にぎやかになってきました。

野上通りには田んぼはほとんどなく、駐車場をされている木本様と桜道の南側の木本様がお米を作っておられました。その他はさつまいも畑が多かったです。

逆瀬川団地も 30 年位(？)から松林を伐採して造成をはじめ、現在も自然の松が多く残っていま

す。その頃、甲東園－逆瀬川のバス路線が逆瀬川団地迄延長され、便利になりました。昭和 42 年から 2 年ほどの転勤で宝塚をはなれ、44 年 3 月に帰ってきましたら、5 丁目の高圧線の鉄塔附近の山がきれいに造成されていました。

第一中学校昭和 25 年西山へ(新築)、43 年に第一中学校が仁川へ、そのあと同年第一中学校校舎を利用して西山小学校が開校されたそうです。

②現在の西山地域のこと

閑静な住宅地で、逆瀬川駅から自宅まで 1.3k 歩ける範囲内にあり、バス停(桜道入口。逆瀬川団地前)に近く、足の便も良い所です。

春は美しい桜道の並木や逆瀬川団地の桜等、居ながらにして花見が出来、最高の住宅地です。が、坂道が家の両サイドあり、荷物を持って上がるのがだんだんきつくなってきました。

③自治会ごとの区域の問題点や提案事項・その他地域について考えることなど

光ガ丘行きバス路線新設の件です。逆瀬川駅より、野上 3 丁目迄 700m あるそうです。その間バス停はありません。高齢化が進み、水道道(すいどうみち：編集者注：神戸水道です。現在の野上 3 丁目と 2 丁目の間に南北に通っています)附近に新設の同意書を宝南第一自治会に 2 年前お願いしましたが、良い結果が得られず、中止になりました。当自治会で上り下りのバス停を設けると、宝南第一自治会の同意書は不要らしいです。逆瀬川方面行は内諾(宝南)を戴いております。今回又一部の方から新設をの声を聞きます。

■　野上通りの過去と現在

写真右：1963(昭和 38)年頃(川西伊丹宝塚の 100 年史より)。ニコヨン(日当 240 円)の作業で道路の舗装が進められていました。失業対策事業として有効だったとのことです。上記100年史には昭和38年道路舗装率は 35%とあります。

■写真右下：2003(平成 15)年現在：恐らく同じ附近と思われます。上の写真に並んでいた道路上の樹木は、2003 年末現在は 3 丁目に一本の大木を残すだけとなっています(写真下)。

（３）野上幼稚園

野上地区管見

木本　徹さん(昭和20年：1945 年 12 月 28 日から居住)

【木本徹さんは、野上幼稚園の園長を長くされていた方です。お世話になった方も地域内には多くおられます。野上幼稚園は昭和50(1975)年10月12日の創立で昭和51年開園され、現在に至っています。野上幼稚園では、2004年から帰宅用に通園バスを利用するようになったそうです。野上本通りは区画整理の「はしり」であったとのご指摘をいただいています。以上編集者注。】

◎夕方、勤めからの帰り、逆瀬川駅のホームに降りて、北の方を見る。ついそこの、火葬場の煉瓦積みのエントツから白い煙が上がっているのを見ると小林在の人の不幸があったのが分かるのだった。そこから、北の方が字北畑になっていた。転じて西に行くと、字野上になる。

◎かなり勾配のきつい坂を上る。「野上の坂」と呼んでいる。坂を上りつめた左手に立派な邸宅があった。今はマンションに変わっている。３０メートル余り行くと、右手に競馬の調教師の邸があり、屋敷神の祠を窺うことが出来た。馬の銅像もあったようである。

◎野上の町は、駅に近いし、丘の上の景勝地であるし、宅地としては理想的であった。実際、戦前から、野上耕地整理組合が組織されていて、野上の本通りを中心に区画整理が進められていたのである。この組合は、事業を完成して、昭和２４年頃に解散している。このことについては、宝塚市史にも記載がないようである。

◎もともと、野上は、畑地が多く、水田は少なかった。用水に乏しかったためだろうか。用水池は、今の野上４丁目付近に中谷池がある程度だった。だから、野上の冬は麦を、夏は一面に甘薯、だった。しかし、農作業は大変な苦労だった。大体、野上の住人で営農している人は 3 軒だけで、後は小林在の人ばかりだった。すべて人力の時代だったから、野上の坂が一大難所だった。

◎肥桶を積んだ大八車が坂を上がるには、2 人の後押しが要る。とにかく大変。私の知人など、天秤棒で一荷の桶を担ぐほうが楽だ、と言っていたが、息杖を持って休み休みでないと野上の坂は上がれなかった。だから、世の中が少し落ち着いてくると、畑は次々と宅地に変わっていったのである。

◎野上本通りの突き当たり、西側の斜面一帯を整理して、宝南荘と名づけて売り出されたのは昭和３０年前だったか。

その一画に創立したのが野上幼稚園で、昭和 50 年 10 月 12 日を地鎮祭の日とした。その頃逆瀬台は造成後、日浅く、家屋もまばらにしか建っていなかった。強い西風の時は、砂塵を巻き上げる。

昭和 51 年４月 13 日、入園式。大雨。園児 84 名。

◎　野上 5 丁目は、野上本通りの西端、裾野から丘の上までの、かなり広範囲の地域である。私が、その丘の西側の斜面の一部を購入したのは、昭和 30 年頃であった。地理調査所の 5 万分の１地図では、そのあたりからは、等高線が描かれているだけで、行者山に続いている。光が丘の北端は、現在、中学校だが、その向こうは、断崖で紅葉谷になる。一方、西に行けば岩倉山への上り口に達する。この付近一帯は松茸がよく出た所で、松茸採りの名人を自称する人も何人かいた。

◎　昭和 30 年代に入ると、宅地造成が盛んになり、光が丘、青葉台が売り出された。今の逆瀬台 5 丁目付近に住友生命が運動場を造り、それを日興證券が譲り受けたが、やがて、日興証券の破綻で阪急不動産に渡った。付近一帯を買い集めた阪急不動産は宅地造成に着手する。

逆瀬台造成前、ほんの一時であったが、「南山大学所有地」の立て看板があった。どんな大学か知らないが、もし大学が立地していれば、その後の様相はかなり変わったことだろう、と思う。

◎　野上幼稚園から北へ下って、支多々川の手前に来ると、「妙見大菩薩」の石碑がある。かなり大きい自然石に刻まれている。その側の家の人が管理されていることとおもうのだが、声をかけたことはないのが残念である。長年にわたって祭られて来たに違いない。5 万分の一の図にも記載されていた、と思う。思う、だけで確かめる気力はもうない。

◎　幼稚園としては、園児の登降園は、「お母さんと手をつないで」を原則にしているのだが、世の移り変わりは激しく、それを許さない世相になった。

以前は学校の近辺と言えば好ましい環境とされた。今や、校害＝公害である。

同様に悪くすれば、老人を目して老害とされないよう、心しなければならない、と自戒の思い切なるものがあります。

（来年の年男、８３翁　木本　徹：きもと　とおる）

（編集者注：以上は昨2003年末にお寄せいただいた原稿です。）

（４）西山の今昔

蒲原幸生さん(昭和 33 年：1958 年から居住)

①昔の西山地域のこと

西山の付近はまだ狸が出るとまでいわれ、自然そのままの山でした。いまを去る 40 余年です。やがて或る銀行のグランドが出来、次に阪急の宅地開発が急速に進み、逆瀬台が出来上がり、上にも逆瀬台小学校が出来て、西山小学校は遥か下になってきました。娘が西山の小学校の第一回卒業でしたが、スッカリ巣立ち、40 歳にもなり、今昔の感ありです。

②現在の西山地域のこと

逆瀬台の上まで、川沿いに続いて、マンション、小学校、高等学校（二つも）など出来上がり、西山小学校はスッカリ落ち着きました。その後、もう 10 年近くになった阪神大震災の折は、西山小学校が避難所になり、臨時電話は無料で掛けられ、そしてすぐ目の前のグランドには仮設住宅が一杯できたのも夢のようです。

③自治会ごとの区域の問題点や提案事項・その他地域について考えることなど

現在の櫻並木道はスッカリ重要な幹線道路として、六甲山を降りて、逆瀬川駅前を避けて、南口にぬけ、朝晩のラッシュ時には歩行者は櫻並木の陰を潜って歩かなければなりません。学校への登校、下校には大変危険です。将来は一方通行にしなければ、ならない時が来そうです。是非環境を守るために、何本か櫻を植え替え、櫻並木の再生（昔は道路は大きな池の土手の上の静かな並木道、ボートも浮かんでいました）を考えたいものです。ある方が「櫻並木の環境を守る会」をつくられ、逆瀬台上の方の中学や宅地開発でダンプカーが列をなし、公害を防がれた思い出が残ります。

（５）西山地域のこと

小梅喜久子さん(昭和 47 年:1972 年から居住)

①昔の西山地域のこと

西山小学校は 50 年前宝塚第一中学校として開校され、校地の住所、小林字西山、木造 2 階建の校舎 2 棟と運動場のみでした。

卒業式は青空天井の中庭で挙行されました。

私の卒業式の時は雪がちらつき、ふるえながら仰げばとおとしを歌った思い出があります。学校の裏現在の逆瀬川団地は山でした。

今の桜道附近だと思いますが、ひょうたん池があり、まわりに桜等あり、池の後ろは山林で美しい景色でした。

駅から最初にバスが運行されたのが逆瀬川団地までで、昭和 35 年 9 月 11 日です。

②現在の西山地域のこと

逆瀬川駅まで運動のため歩いても、ほどよい距離、スーパー、バスもあり生活するには最適の住宅地だと思います。

③自治会ごとの区域の問題点や提案事項・その他地域について考えることなど

家庭のごみ出しの規則違反の件

（６）西山地域のこと

磯村薫さん(昭和 33 年:1958 年から居住)

①昔の西山地域のこと

現在の野上に住んで 45 年、西山地域とはこの辺りを指すのであろうか？「中ヶ谷」と呼んでいた頃もあったのでは。直径にして 10～20m くらいの池が近くにいくつもあって、鮒やモロコが良く釣れた。池の近くで桑の葉を採り蚕の餌(えさ)にした。私の出身の宝塚第一小学校は、我々の時に当時では珍しい円形校舎(効率の悪い建築物であった)が建てられ、自慢であった。今の宝梅地区は、昔、ハクサリと言われ、歯に悪い水質だったらしい。

②現在の西山地域のこと

どのような部分が扇状地なのか分かりませんが、支多々川をはさんで、野上通と宝梅の高台あたりが同じ高さに思えます。長い年月をかけて支多々川が、多くの土砂を下流へ運び、現在の地形ができたのではないでしょうか？半世紀も経てば、山林から宅地、級友も音信不通と環境は大きく変っても、変らないのは、西山地域の地形と通りから一歩入った細い道、美味できれいな空気位でしょうか？

③自治会ごとの区域の問題点や提案事項・その他地域について考えることなど

１．地震・火災時等、万一の場合の避難場所の周知徹底(防災)
２．昔から大きな事件が起きていないから良いが、防犯灯の設置増(防犯)
３．これから年寄社会になる為、年寄の集まれる場、催しの実施(福祉)
４．細い道路を一方通行にするとか、道幅を広げるとか(環境)
５．パトカーの巡回。年に一度位しか近辺でパトカーを見ない(安全)
６．多くのハード面で恵まれた宝塚市。ソフト面でも充実を期待します。

（7）野上郵便局

池田佐和子さん

【野上郵便局の敷地は以前は個人住宅でしたが、のち郵便局となり、現在にいたっています。2003 年現在の池田局長から短文をおよせいただきました。以上編集者注】

宝塚野上郵便局は、昭和５４年７月に開局され初代局長に光井千鶴子さんが就任されました。

平成６年７月より私、池田佐和子が２代目局長として、前局長の意志を継ぎ、地域の皆様に愛され、親しまれる郵便局を目指して頑張っているところでございます。

広報「コミュニティ西山」は、私の子どもも西山小学校にお世話になっていたこともあり、いつも関心を持って拝見しております。地域に根ざす郵便局として、公共の機関として、何かお手伝い出来ることがあれば、西山地区の発展のために貢献していきたいと思います。

郵便局に来られたら、お気軽に声をかけてください。お待ちしております。

（8）西山地域のこと

満谷昭夫さん(昭和 38 年:1963 年から居住)

①　昔の西山地域のこと

私達が野上 3 - 11 - 10 の現在の自宅に移ってきたのは、昭和 38 年で、1 年前にこの地に自宅を建設した父が歿(な)くなり、母と妹が二人で住んでいたところへ、転勤のために幼児の息子と娘を連れて一家四人で移り住みました。

家の周囲は未だ小高い松林に囲まれ、バスもなく、逆瀬川の駅前から沿道に未だ疎らにしか住宅の建っていない野上通りの上り坂を 15 分かけて家まで帰るのに夏には汗みずくになりました。そのうち白タクが駅から家まで送ってくれる日もあるようになったり、自宅の西に逆瀬川団地が建設され、更には家の回りの松林が切り払われて、興銀グランドに沿った路肩までが宅地に造成されて、十数軒の家が子供たちが基地と称して遊び場にしていた松林のあとに建ち、子供たちの遊び場が無くなってしまいました。このおかげで見晴らしもすっかり悪くなり、昔は窓から見物出来た宝塚南口の川原や、阪神競馬場での花火大会も全く見えなくなってしまいました。団地の東端に排水処理場が設けられて風向きによっては悪臭に悩まされることもよくありました。尤も、これは数年後移設されたのか、新方式に変えられたのか、問題が解決しました。

その内、中学校の移転に伴い現在の西山小学校が校舎をそのまま使って開校され、息子は第 1 小学校から 3 年生から新校の最上級生となり、第一回の卒業生になりました。一方娘は翌年第一回の入学生になりました。

②　現在の西山地域のこと

前述の様に住宅が続々と建ち、見晴らしはすっかり悪くなりました。広い松林もすっかり取り払われて住宅が立ち並び、子供たちの遊び場が無くなってしまいました。その上相次ぐ危険人物の凶行で小学校の校庭も遊び場として開放されなくなってしまいました。人口が大幅に増えたにしては道や街角で遊ぶ子供たちの声が殆ど聞かれなくなってしまいました。塾通いで路上で遊ぶ子供が殆どいなくなってしまったのでしょうか。それとも自動車の往来が頻繁で危険だからでしょうか。

自動車の普及で便利になった一方で、駐車違反の人が多いのは困りものです。特に、アメリカ

製の大型ボロ車をあたかも放置廃棄しているかの様に長期間放っておく人がいるのは、近所迷惑で困っています。

③　自治会ごとの区域の問題点や提案事項

前項の放置自動車については警察に訴えてもなかなか対応してくれませんでした。私達の税金で養われているのに、住民のために早急な対応をするという姿勢に欠けていると言わざるをえません。

また、最近空家や長期不在のお宅がアチコチに散見されます。持ち主や地主が放置して草ボウボウになっているところもあり、害虫の繁殖や景観の問題は当然としても、猫の繁殖、危険な人物や団体の隠れ住みの可能性も考えられ、何らかの安全上の対策が必要ではないかと考えます。

（９）㈱松田ポンプ製作所

【松田ポンプは野上 2 丁目にあり、コミュニティ西山の区域に隣接しています。以前は宝南自治会にも属しており、初代の社長の松田栄治郎さんは、宝南自治会の会長もされていました。昭和 20(1945)年 6 月に大阪の工場が戦災にあったことから、逆瀬川沿いの現在の地に移転してこられました。ケミカルポンプの専門メーカーとして知られています。阪神淡路大震災の際は、工場の外で水道を 24 時間流していただき、私たちもとても助かりました。また、工場であることから、車の出入りもあり、周辺住宅地に対する配慮にはとても気を使っておられます。コミュニティ西山の区域にはものづくりの会社はほとんどありません。私たちは地域に立地する国際的なメーカーを、もっと誇りにしたい気がしています。「松ぽっくり」という社内報を出しておられ、以下その一部を引用させていただきます。】

写真右：宝南自治会で宝塚神社にお参りした際の記念写真です(社内報松ぽっくり 1973 年 1 月号から 2003 年 11 月 17 日に複写)。正面が松田栄治郎さんと思われます。

『私が入社したときは桜の花の咲く頃でした。今日まで 25 年の歳月は長いようで、また短いようでもあり、楽しい事、苦しい事もあります。いや苦しい事の方が山のようです。昭和 22 年入社当時、逆瀬川駅より会社までの道のりは淋しいものでした。住宅が 20 戸ほどパラパラと建ち、このへん一帯は松やアカシアの木におおわれていました。そんな中に、ポツンとわが社があったのです。いまはすっかり住宅街に取りかこまれてしまいました。特に最近の 15 年程は変化が激しかったと思います。』

(25 年勤続をされて表彰された清水泰作さんの文章です。社内報「松ぽっくり」1973 年 1 月発行：に掲載されています。)

松田ポンプ　略年表(以下は編集者が整理させていただいたものです)

1916　大正 5 年：松田栄治郎大阪市東淀川区本庄町に於いて松田鉄工所開設。化学用ポンプ並びに製紙機

械の製作に着手。
1929　昭和４年：大阪市西淀川区浦江北４丁目に増築移転を行い、化学用ポンプ並びに揚水ポンプ（主として渦巻型）の製造設備拡充を行う。
1940　昭和 15 年：海軍監督工場に指定され、海軍火薬廠へ硝酸製造装置並びに硝酸用化学ポンプを多数納入する。
1945　昭和 20 年 6 月：大阪浦江工場戦災にて全焼し、現在の宝塚市逆瀬川へ移転する。
●戦前は主として耐蝕材料は高硅素鋳鉄、硬鉛、ステンレス（Ni8-Cr18）を使用する化学用ポンプの製造を行っていましたが、戦後は上記の外ゴムライニング製（天然並合成ゴム等）並びに塩化ビニール製ポンプも開発し、更にステンレスポンプの材質はハイニッケル合金に至るまで多種類に及んでいます。
1964　昭和 39 年 10 月：松田栄治郎、代表取締役を辞任し取締役会長となり、松田栄一代表取締役となる。
1969　昭和 44 年 6 月：松田ポンプ製作所東京連絡所を開設する。のち東京営業所と改称する。
1983　昭和 58 年１２月：研究所完成。
1984　昭和 59 年２月：アルミ溶湯用セラミックポンプ開発。
1986　昭和 61 年９月：創業７０周年記念行事。
1989　平成元年１月：セラミックポンプ　発明大賞（考案功労賞）受賞
1992　平成 4 年 4 月：神崎サマンダ工場第一期工事完成（兵庫県神崎郡神崎町）
1998　平成 10 年 4 月：排煙脱硫装置用高効率大型ポンプを開発

写真：昔の松田ポンプ。
（社内報「松ぽっくり」より）

写真：現在の松田ポンプ(2003 年)

（以上は、ホームページ、松田ポンプ総務課の畑中さんのヒアリング記録などから編集者がまとめたものです）

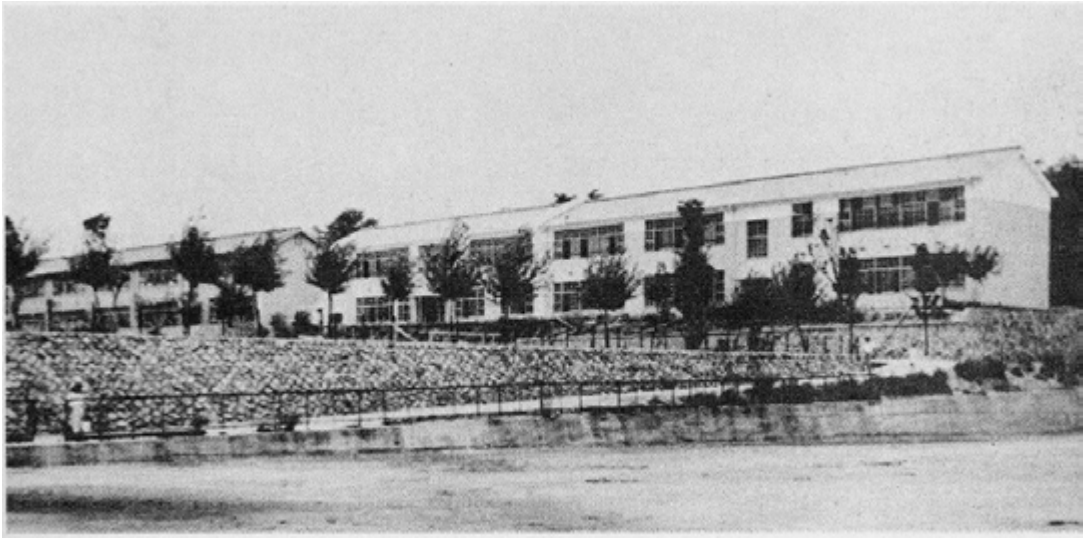
（１０）西山小学校

西山小学校は、昔は宝塚市立第一中学校でした。この第一中学校は昭和 25（1950）年にこの地に立地、のち昭和 43（1968）年に第一中学校が仁川うぐいす台に移転したことに伴い、西山小学校となって現在に至っています。そのころは中学生と小学生が一緒に学習したこともあったそうです。

この西山小学校は、平成 7(1995)年の阪神淡路大震災の折には、緊急の避難所となり、しばらくの間、地域の拠点として活用されていました。

また、校庭が広いことから、少年野球やサッカーの試合によく利用されています。校歌にはポプラの枝がでてきますが、現在はその多くが切られてしまい、その面影がほとんど残っていないのは淋しい思いがします。

写真 : 第一中学校(2003 年現在の西山小学校)　昭和 30 年前後の写真で現在の「きんでん」のグランド(以前は日本興業銀行所有)からの写真です。後方の住宅公団の団地はまだできていません。
西山小学校の校歌に「たちならぶ　ポプラの枝に　たくましく　ふくらむ　若芽」とありますが、ポプラの木々が列植されていると思われます。現在はこれらの木々はプールや岩石園などの整備で、ほとんど伐採されています(もしかしたらヒマラヤ杉かもしれません)。



写真下 : 現在の西山小学校をきんでんグランドから見たものです。右後方が住宅公団(2003 年末現在「都市基盤整備公団」)、左後方はサンベールマンション 1 号館です(2003 年 12 月撮影)。